

田中澤一 法政評論家。明治二十年四月、二十七自東京生れ、昭和二十一年二月十五日歿（八十七）（九五）。筆名ほたるとのり、らんせん、伏見藤四郎、小菅金八、笠原、螢澤藍川、籍田清藏等。田中智學の次男。學業は代用小學一年のみといふ。白蓮主義の家へ育ち、自らも熱心な信者となる。のち政治結社と裏養正會を組織。昭和二十二年月刊個人誌『綜合生活』を創刊した。

著書 『河畔』（螢澤藍川名、大正十一年二月十八日京都・自刊）、『白蓮聖人の足跡』（同、大正十一年二月二十日新潮社）、『日本改造の具體案』（昭和二年二月十一日らんせん荘）、『大和の藝術紀行』（ほたるとのり、らんせん名、昭和八年九月十五日らんせん荘）、『國をこぼくとも裏養正會に聚れ』（昭和十一年二月十一日養正時評社書籍部）、『二度の厄・上巻』（ほたるとのり、らんせん名、昭和二十五年十一月十七日綜合生活社）『ほたるとのり・らんせん自傳叢書』（）、『白蓮聖人の足跡（第二編）』（同、昭和二十六年四月二十七日綜合生活社）、『幼年・少年』（同、昭和二十六年七月十九日綜合生活社）、『シヤガイモ日記―我が獄中記』（小菅金八名、昭和二十六年九月十九日綜合生活社）『ほたるとのり・らんせん自傳叢書』（）、『綜合生活論―主として人間と自然の關係について』（らんせん文庫編纂委員会編、昭和四十一年二月十五日らんせん文



庫等。

